

レアジョブ

代表取締役社長

中村 岳氏

法人、教育向け開拓で成長加速

コロナ禍で業績高成長が確認されたオンライン英会話最大のレアジョブ（6096・東マ）。なお、昨年は1年間で株価12倍の大相場を演じた銘柄でもある。現在は東証1部への市場変更に向けた準備を進めるほか、新たに語学力のテスト事業を立ち上げるなど、事業拡大に精力的に取り組む。成長戦略を中村代表取締役社長に写真に聞いた。



「まずは第1四半期（4～6月）決算を振り返って。売上高、営業利益ともに第1四半期として過去最高の数値を更新した。特にコロナ禍による在宅時間の増加が業績に与えた影響は大きい。全国小中学校の臨時休校や、緊急事態宣言の発令に伴う外出

自粛などを背景に、個人向けは4、5月の新規獲得ユーザー数が前年同月比2倍程度に拡大。ユーザーあたりの受講数も増加し

「サーブスは月額定額制で、ユーザーあたりの受講数が講師の報酬（原価率）に直結する。第1四半期の売上原価率は、昨年同期比5割の上昇と、直近だけで見ると粗利率が下がった格好。しかしその半面

自粛などを背景に、個人向けは4、5月の新規獲得ユーザー数が前年同月比2倍程度に拡大。ユーザーあたりの受講数も増加し

サブスクリプション型のサービスは受講率が高いほど途中で辞めにくくなる傾向があり、LTV（顧客生涯価値）の向上が結果として中長期の利益拡大につながると考えている。ユーザーあたり受講数は4、5月にピークを付け、6月以降は落ち着きを見せてきている。第2四半期以降は粗利率も改善していくだろう。通期予想は保守的に見積もっている」

英会話サービス軸に世界展開目指す

「注力していく取り組みの1つが、6月にリリースした英語スピーキング力測定システム『PROGOS』の本格展開。外国語のコミュニケーション能力を表す世界的な基準であるCEFR（セフアイエル）に基づいたテスト。TOEIC L&Rが英語指標として広く使われているが、それだけでは可視化出来ない英語のスピーキング力を定量的

「2020年の外国語教室の市場規模は前年比11%減の3100億円程度と予測されている。これはオフライン教室におけるコロナ影響のインパクトが見込まれるため。逆にオンライン語学学習市場は前年から3割近い伸びが期待されている。コロナを契機に語学学習を行う際の選択肢として、オンラインが浸透したこと、一度オンライン学習を体験したユーザーはコロナ収束後もオンラインでの学習

「2020年の外国語教室の市場規模は前年比11%減の3100億円程度と予測されている。これはオフライン教室におけるコロナ影響のインパクトが見込まれるため。逆にオンライン語学学習市場は前年から3割近い伸びが期待されている。コロナを契機に語学学習を行う際の選択肢として、オンラインが浸透したこと、一度オンライン学習を体験したユーザーはコロナ収束後もオンラインでの学習

「学校向けサービスは、通信教育大手のZ会グループとの資本業務提携のもと、英語の教科書に対応したオンラインレッスンなどを開発・提供している。また、このほど学校と自宅で連動した中高生向けオンライン英会話の提供も始めた（9月1日発表）。現在は英語教育を取り巻く環境が大きく変化しているほか、政府のGIGAスクール構想によりオンライン教育の環境

「学校向けサービスは、通信教育大手のZ会グループとの資本業務提携のもと、英語の教科書に対応したオンラインレッスンなどを開発・提供している。また、このほど学校と自宅で連動した中高生向けオンライン英会話の提供も始めた（9月1日発表）。現在は英語教育を取り巻く環境が大きく変化しているほか、政府のGIGAスクール構想によりオンライン教育の環境

「昨年開示した2020年～22年3月期までの中期業績目標をより早く達成し、さらに成長させていく。当社は日本人1000万人を英語が話せるようにする』をミッションに掲げ、その先には英語が話せるだけでなく、グローバルに人々が活躍する基盤を作っていきたいと考えている。そのためには英語でプレゼンテーションや交渉を行うスキルなども必要だ。既存の英語関連事業を土台に、こうしたスキルの習得を目指すグローバルリーダー育成事業にも踏み込んでいく。さらにグローバルスキルを身に付けた個人とグローバル人材を欲している企業をマッチングするキャリア関連事業を併せて進展させる形を目指す。当面は事業への投資を優先し、業績拡大による企業価値の向上が結果として株価に反映される形で株主の方への還元としたい」

「測定できる。なお、CEFRは信頼性の高い指標として世界的に普及しており、当社で法人向けに提供している成果保証型サービス『スマートメンツドコース』にも採用している。採点はAI技術を用いて自動化されており、スピーキング力を改善するためのフィードバックも提供。特にグローバルなビジネス展開を進める上で英語活用が欠かせない企業からのニーズは高い。PROGOSが英語スピーキング力を測定するスタンダードとなることを目指す」

「英会話市場の成長性について。2020年の外国語教室の市場規模は前年比11%減の3100億円程度と予測されている。これはオフライン教室におけるコロナ影響のインパクトが見込まれるため。逆にオンライン語学学習市場は前年から3割近い伸びが期待されている。コロナを契機に語学学習を行う際の選択肢として、オンラインが浸透したこと、一度オンライン学習を体験したユーザーはコロナ収束後もオンラインでの学習

「中期的成長戦略は。昨年開示した2020年～22年3月期までの中期業績目標をより早く達成し、さらに成長させていく。当社は日本人1000万人を英語が話せるようにする』をミッションに掲げ、その先には英語が話せるだけでなく、グローバルに人々が活躍する基盤を作っていきたいと考えている。そのためには英語でプレゼンテーションや交渉を行うスキルなども必要だ。既存の英語関連事業を土台に、こうしたスキルの習得を目指すグローバルリーダー育成事業にも踏み込んでいく。さらにグローバルスキルを身に付けた個人とグローバル人材を欲している企業をマッチングするキャリア関連事業を併せて進展させる形を目指す。当面は事業への投資を優先し、業績拡大による企業価値の向上が結果として株価に反映される形で株主の方への還元としたい」